

風仕事

宮坂静生

六月の梢うれを仰ぎて桐の花

「岳」四十五周年集いが終わり

晴れ厚き日の葡萄蔓走り出す

感謝 土屋敏弘さん

朗詠の卒寿の響き若夏わか なちへ

ひと抱へ木曾きそ贄にえ川かわの暁あけの露

露を剥きコロボックルに会ひたかり

親指の先をつぶして露を剥く

皮剥かれ露の涅槃に入るごとし

葱の畝のはこべ除きは風仕事

追肥どんどこ胡瓜も茄子も御陀仏に

せかせかと偏愛とまと蕃茄苗枯らし

枯らし植ゑ土用雀に笑はるる

悼 大石悦子さん

青葙原一期のケルン積みたかり

再び悼み伴野敬一兄

次の世へ語り残せば花菖蒲

かたつむりけふ戦前といふなかれ

